

コンサルタントの現場から
(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

第170回 **些細な変化に気付いているか**

交通事故の原因を掘り下げると

運送業界においては、どの企業でも運輸安全マネジメントの取り組みが行われている。安全第一の方針徹底や安全教育、ヒヤリハット情報の共有化、乗務員の健康管理の取り組みなどはどの事業所でも行われている。また不幸にも事故が発生した時にはドライブレコーダーで事故の状況を確認し、原因と共に再発防止策に活用している。

ところで、ある旅客自動車運送業の企業でお聞きしたことが、事故を発生させないためには、それだけでは不十分とのこと。事故を起こした原因を掘り下げて調べたところ、「考え事をしていて注意散漫になっていた」ということが結構多かったそうだ。心配事があったり、家庭内で問題を抱えていたりすると、どうしてもそのことが頭に浮かび運転に集中できず、事故を起こしやすくなるということだ。実際、借金問題や介護の問題、離婚問題や子供の問題など問題を抱えていることは多い。これらの問題が頭を過ると注意散漫になるのももっともなことだ。これを踏まえて、この企業ではメンタル面での対策に力を入れているとのこと。個人的に抱えている悩みはないかを把握すると共に、それらをいかに相談しやすくすることが大切と言う。これは単なる運転手の健康チェックだけでは見つけることは難しい。

製造現場での怪我や品質問題の原因にも

実は、同じことが製造の現場にもあてはまる。製造現場での怪我や事故の中には、注意散漫になっていて注意すべきことが注意でき

ていなかったということがある。また、怪我や事故だけではなく、品質問題が多発することもある。筆者の指導先でのことだが、その日の工程不良が突然増えていたので確認したところ、ある特定の作業での見落としが続出していた。リーダーに確認したところ、作業者はいつものメンバーとのこと。作業者には見落としをフィードバックして注意したとのことだが、明らかに異常なので、その作業者に私的なことで何かあったのか確認してもらった。わかったことは、その作業者はいつも生理の前になると体がだるくなって、作業に集中できない状態になっていることがわかった。

些細な変化に気付けるか

話しを聞けば、そういうことか終わってしまう話なのだが、大切なことは、このような作業者の変化にどれだけ気付いて配慮できているかということだ。冒頭紹介した絶対に安全な運行をモットーとされる旅客自動車運送業の企業では、家庭での心配事はないかということまで、一歩踏み込んだ取り組みをされている。

従業員の顔付きの些細な変化にも気付いて声を掛けることができる職場は、問題を未然に防ぐことができる。また、そのような気配りの行き届いた職場は従業員にとっては、まさに居心地よく、タイ語で言うサバイチャイな職場と言える。

このような職場を作ることができるか否かは、その職場の責任者

【第10面に続く】

<執筆者プロフィール>



高橋 功吉 (たかはし こうきち)
(株)ジェムコ日本経営 / 常務理事 グローバル事業担当

大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

バンコクエアウェイズ
チェンマイ - ハノイ

Fly Boutique. Feel Unique.



3 Year Winner of
 WORLD'S BEST REGIONAL AIRLINE &
 BEST REGIONAL AIRLINE IN ASIA
 2014 / 2016 / 2017



【第9面から続く】

の心がけで大きく違ってくる。毎朝、「おはよう」という挨拶の中で、部下の顔付きをしっかりと見て、体調は問題ないか、悩みを抱えている様子はないかを意識して観察することが大切だ。これを日頃から意識している人は、自ずと変化に気付くことができるようになる。

些細な変化に気付くことのできる上司は部下からの信頼も厚く、協力的な職場にできる。単に、怪我や事故がなく、品質問題を発生させないというだけではなく、コミュニケーションのとれたベクトルのあった職場にすることができるということだ。まずは意識して部下の顔付きを見ることから始めてみてはどうだろうか。

パーツの相場見通し

Dealer's insight

橋 雄史

みずほ銀行

ドルパーツは、トルコリラと人民元相場に振らされる展開

先週8月9日のドルパーツは、33.20近辺で取引を開始。上海株式市場が上昇し人民元が買われる中、アジア通貨全般に買いが入るとドルパーツも33.10台まで下落した。海外時間に入るとトランプ政権によるトルコとロシアへの制裁が嫌気され、新興国通貨が軒並み下落。ドルパーツも33.20台まで反発した。

翌10日はトルコリラ安が継続する状況下、欧州中央銀行(ECB)がトルコにエクスポージャーを抱える欧州銀行の債務を懸念し始めたことでユーロ相場が大きく下落し、世界各国の株式市場も全面安の展開となった。トルコリラは前日比で約2割の下落をみせ、新興国売りが加速する中でドルパーツは一時33.35近辺まで上昇した。週明け13日はタイが祝日で休場となる中、リスクオフムードが継続。クロス円が続落する中でドル円が直近安値を更新した他、ドルパーツも33.30近辺で取引を開始すると、オフショアでパーツ売り圧力が強まる中、一時33.40近辺まで上昇した。

翌14日は過度に進んだトルコ懸念が落ち着きを見せ始めるとユーロや新興国通貨の買戻しが入り、ドルパーツは33.25近辺まで下落する。

15日は、前日に中国の経済指標が冴えない結果になったことやイタリアの財政懸念からユーロ相場に下落圧力がかかる中、ドル買いが優勢となり、ドルパーツは33.35近辺まで上昇。その後はトルコ

当局が銀行のスワップ取引の上限を従来の50%から25%に引き下げることを発表するとトルコリラが急伸し、ドルパーツも33.30近辺まで下落した。

ドルパーツは引続き堅調地合いを予想

8月に入ってからのドルパーツは、トルコリラや人民元の動向に振らされながらも、33.10～33.40をコアとしたレンジ推移が継続している。7月後半から8月初旬までは日米欧の金融政策に注目が集まったものの、いずれの会合も大きな政策変更は見られず、先週8日に発表されたタイ中銀の政策金利も予想通り1.50%となったことで、パーツ相場への反応は限定的となっている。

かかる中、市場の関心はどこへ向かうのかに注目したいところであるが、トルコ問題のような短期的なノイズを除くと、米国の通商懸念以外はこれといった材料もなく、夏季休暇入りしている取引参加者が多く、流動性も低下している状況下、来週は動意に乏しい展開が想定される。タイの実態経済は好調であり、ファンダメンタルズに即せば、パーツ高をサポートする構造に変化はないが、着実に利上げを実施している米国(9月の連邦公開市場委員会(FOMC)についても約9割の利上げ確立を見込む)と未だに利上げに踏み切れていないタイとの金利環境を踏まえれば、証券投資を初めとして、米国(ドル)の方がタイ(パーツ)よりも分があるように感じられる。トランプ大統領が米国の利上げに対して否定的であるのも事実で、ドル高と連邦準備制度理事会(FRB)の利上げについて踏み込んだ発言がなされた場合はドルパーツが大きく値を崩す展開もあり得ようが、基本路線としてはパーツ安基調が継続する展開を予想したい。

(8月15日18:30)



講師
小田切 杏奈
Anna Otogiri
Marketing Manager

バンコク週報グループ (J Biz recruitment)
・タイ人エンジニア向けの教育普及活動
・大学工学部のタイ人教授による
エンジニア向け研修
・人材紹介業務

<経歴>

大手電機機器メーカーにてグループセクレタリー、貿易会社、エンタメ系会社にて代表秘書、ゲーム開発会社にてバックオフィスマネージャー、コンサルティング会社にてプロジェクトマネージャーとして業務に従事。2017年にタイに渡り、2018年1月より現職。

バン週 ビジネスセミナー

タイにおけるエンジニアスタッフとのコミュニケーション、教育について
他社の事例をお話し、貴社のニーズにあった教育制度の導入方法をご提案いたします。
自社で優秀なタイ人エンジニアを育て、確保し、定着率を上げる教育制度を紹介いたします。

2018年8月24日(金) 15時-16時半

会場 // バンコク週報会議室

参加費 // 無料

定員 // 5名以下(1社1名程度)

主催

バンコク週報グループ

本社

Charn Issara Tower 1st Floor, 942/43 Rama4 RD., Suriyawongse, Bangkok 10500

※最寄り駅: BTSサラディーン駅より徒歩3分、MRTシーロム駅より徒歩5分

TEL: (02)632-9179

お申込み・問い合わせ

貴社名・ご氏名・お電話番号を明記の上、件名を「月例セミナー6月参加」として下記アドレスまでお送りください。
(コンサルティング、人材紹介、教育関連企業の方のお申し込みはご遠慮ください)

E-mail: anna@bangkokshuho.com (担当: Anna Otogiri)

※諸事情により、セミナーの内容が告知なく一部変更になる場合がございますので、予めご了承下さい。